

第177号  
BenHouse  
編集人 尾上大輔  
(記事はあくまでも  
編集人個人の私感で  
ございますので悪し  
からず。)  
www.benhouse.co.jp

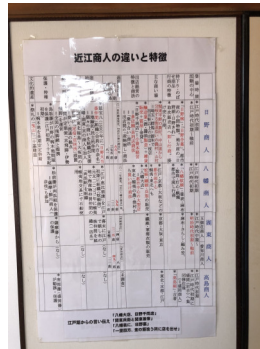
「おっちゃんサイクリン  
グ滋賀・三重・京都」

最近乗れてないのよね、自由時間が少なくて困っている。ついにチャンス到来。GW前半にスキマが。10日前に決定。予約予約つとね。寝る所がないと困るもんね。れつれつ、1日目の伊賀が空いてない。奈良から入って三重、滋賀と違っていたが急遽反対周りで。滋賀は水口に1泊2食2万円、目を疑うがあと5部屋。瞬間4部屋を予約。弱いねー、あと5部屋なんてね、商売上手やん。続いて翌日の伊賀、これは8千円と良心的。さすがルーティン。GWの需要期になると高いな



PAさんとは違う。うれしいなあ。やつば需要と供給で考えるホテルと、お客様感情を重視するホテル。どちらも正しいが、皆さんどっちが好きかなー？1日目は大津・八幡・竜王・日野へ向かう。今まで行けてなかった空白の町、ついにに行く。これって大ちゃん都合？そうなんです。ゼーんぶ自分でコースは決めます。その時に気分が急遽変更もあり。4名のみ。無理強い無し、気心合わせていただいで、参加してもらっています。近江商人って知ってますよ。近江商人は五箇荘の近江商人の館は行ったことあるが、日野はよいしよとがなばらなれていけない町(ちよつと離れたか)です。一番行きたかったのが、近江日野商人館です。16時まで掃除の女性の方に、だめ庭

と16時で、すよでね、残念だ。なあ、人がいますのでぜひ見ていただくさい。だつて、うれしいねー。さすが近江商人さんでした。お〇〇とはちよつと違う。近江商人には日野・八幡・湖東五箇荘・愛知川・高島に大きく分けられます。それぞれ特徴がある。八幡で有名は西川の布団屋、高島は高島屋百貨店、湖東は西武、その他ワコール・伊藤忠・武田薬品等名だたる大会社に発展しています。日野商人は、大店や江戸には出店せず、千両店と呼ばれ、小さなお店を江戸周辺に数多く出店したとが。コンビニとかフランチャイズとかネットワークを得意としていた。タイエーがつぶれていた。現在、似通ったところがある。私を感じたところ、そこ、やはり日野商人が一番と思いましたが、町を散策し



たが、人も、商社も、景気がよさそうでもなし。日野には20基もの立派な曳山があり、今も立派に祭り開催している。全国を駆け回った商人たちが本店は日野に置き、地元の経済を潤したと、考えられます。地元を大事にするのが近江商人です。日野の素晴らしいところ、集落と田んぼがとなりあわせています。商・職・住・耕が隣接。昔の日本の原風景がここにありました。都会に疲れたらぜひ見に行ってくださいね。日野集落の南側よりの眺めです。続いて翌日は甲賀の忍者の里へ向かいます。皆さん忍者といえは甲賀と伊賀ですね。どちらも同じ「賀」が付きますよ。他に加賀・甲賀・伊賀・雑賀と「賀」が付きます。忍者と「武」が付きます。忍者のいるところに「賀」の文字が付きました。地図上でも一直線につながって、尾根伝いに、情報を



やりとりしていたとか。甲賀五十三家筆頭は望月家です。その望月家の忍者屋敷が昭和三十年より公開されていま

す。甲賀流忍術屋敷です。忍者の居宅とは、戦争で使う場所ではないのですが、さまざまに工夫がされています。一番の機能は敵が獲ってきたときにいかに逃げるかが肝心なようです。戦わずして逃げる。逃げやすい工夫がされています。当主の寝室には、ごんてん返し扉が2箇所、紙一枚で開けられるからくり扉、となりの家まで続く地下道など、3つの逃げ道が用意されています。よつぼど望月さんは用心深かつたんでしよう。この建物、明治から昭和までは末裔が意識せずに住んでいたと、からくりがあつたままです。よ、すごいことでした。昭和に望月家当主の忍者屋敷と解かり、整備して公開しました。知らなかつたから残せたようなもんです。手裏剣の体験コーナー(300円10本)もあり、投げってみました。一発目の



に命中。結構あたるやん。無欲の勝利ですね。すごーい、忍者になれるかもです。忍者の役目は大名に雇われて各地の諜報活動なんです。忍者の格好をして各地を回るのは出来な

いですが、忍術は出来な、修験者、虚無僧、行商、葉売り等と装束を変えて全国各地を回り、諜報活動をしてました。そのときの葉売り、葉

(火葉)の調合なども忍者の役割だった。これが本職でもありました。富山発祥と思われていますが、実は甲賀のほうに古いです。甲賀地方は葉草に恵まれ、葉草の調合にも優れて全国一の葉の里だつたんです。だから現在も日本の名だたる葉品メーカーの工場が甲賀町にあります。その名残だつたんです。甲賀の次は伊賀です。目指すは柘植(つげ)駅です。関西本線と草津線のターミナル駅なのでどんな町かと興味津々。しかし行つて見てびっくり。こつちで言うところ、砥堀駅かな。周



りには何も無し。実は関西本線の駅は集落と駅がすぐ離れていて、駅は町の賑わいを表現できない。そんな感じかな。多分「蒸気機関車の黒い煙で作物が傷む」と、言つたところで集落から外れたんでしようね。ここも地図の空白だつたので、埋められて嬉しかつたです。食事は駅前の唯一の飲食店で、オムカレービールセット(3つの単品)をいただく。みんな分けるという。続いて伊賀忍者の本拠地、伊賀上野へ向かう。20万人都市が町全体で忍者ごっこをやつている。まるで忍者株式会社のような町です。上野城では忍者屋敷と忍者ショー。ちよつと実物以上にイベントチックやね。甲賀の方が本物を忠実に表現。伊賀の方が儲かるけどね。観光客は老若男女国籍問わず1割は忍者装束。誰でも千円で借りられ、手軽に着替えられます。姫路城の着物姿より安上がりなところ



も人気の秘密か? 商店街にもたくさん忍者が潜んでいる。手裏剣投げられんように注意してね。ツアーの楽しみはご当地グルメが最高です。伊賀だから伊賀牛もいいけど。今回は懐と相談して、田楽豆腐の「わかや」さんに決定。電話を入れると「何時頃近なさる? 売り切れんといいのね」。「えつ売り切れるん?」。「15分です。素晴らしい、吹き抜け天井で2階の宴会室もあり、伊賀一番店だな。お客様は観光客が多く、口コミなんです。皆様満足して召し上がつていきました。思ったよりも安く、4人で1万2千円です。また家族でも行けるね。翌日は木津川沿いにのぼり? くだり、無事木津まで到着。カフェで昼食、満席客待ち状態だが、お姉さんに要領よくお願い。DOG席でもいいんだけど。テラス席で早い反省会が始まる。高槻まで走る予定だが、とても無理と正しく認識、木津より帰路に着いた。

走行距離240kmのお楽しみでありました。メダタシメデタシ。

